

1 単元名 球技（ネット型：テニス）

2 単元の目標

(1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、(その運動に関連して高まる体力)などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。

イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をできるようにする。 (知識及び技能)

(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)

(3) 球技に積極的に取り組むとともに、(フェアなプレイを守ろうとすること)、(作戦などについての話し合いに参加しようとする)、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、(仲間の学習を援助しようとするなど)、健康・安全に気を配ることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

ネット型では、コート上でネットを挟んで相対し、身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。ネット型の学習においては、ネット型の種目に共通する動きを身に付けることが大切である。

4 生徒の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級は、男子17名、女子17名の計34名が在籍し、そのうち、男子13名、女子7名が運動部活動に加入している。また、学級の男子2名、女子2名が地域クラブ活動に所属し、学校外で活動している。男女ともに運動に対して好意的にとらえている生徒が多く、日常的に運動に親しむ姿が見られる。1年生の頃にテニスの授業を経験し、事前アンケートによるとテニスが好きと答えた生徒は82%と8割を超えている。その理由として「ラリーが続くのが楽しい」など、技能の達成感で喜びを感じている意見や「友だちと声を掛け合って楽しく取り組める」など、仲間と協力して取り組むことを楽しいと感じている意見が多く見られた。男女間の関係性も良好で、話し合い活動では、積極的に話し合いを行う様子が見られた。しかし、攻防に関する記述は見られず、空いた場所をめぐる攻防を楽しむまでには至っていない。2年生では、空いた場所をめぐる攻防をゴールイメージとしてもたせ授業を行っていく必要がある。

(2) 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関しては、1年時に「テニス」を取り扱い、基本となるストローク、サーブ、ボレーを学習した。1つの技能を取り出した練習では、ある程度自分の思い通りに体を動かすことができるが、ゲームになると、学習したことを活かさない場面が数多く見られた。特に、ストロークのコントロールが不安定で、狙ったところへ打つことができないため、空いた場所への攻防を展開することが課題である。

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、「テニス」の単元において、グループ活動を多く取り入れ、お互いの意見を言ったり、アドバイスを言ったりする対話的な活動を行った。特にタブレット等

を活用して、自他の動きを撮影し、視覚情報を基に思考する課題解決学習を積極的に実践した。また、その際、課題発見シートを用いて課題を見付ける視点を絞ることで、自他の課題把握につながり、話し合いに意欲的に参加できる生徒が増えた。

「学びに向かう力、人間性等」においては、挨拶や返事、整理整頓などの基本的な学習態度を確立させ、ルールやマナーを守ること、分担した役割を果たすことについて学習した。共生の視点から、ルールの工夫について考える学習も行い、1人1人の違いを認めることについて考えることができた。

(3) 体力の状況

段階	男子					女子				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数(人)	2	6	4	3	2	3	6	5	2	0
割合(%)	12%	35%	23%	17%	12%	19%	37%	31%	12%	0%

今年度の「新体力テスト」の結果から、A・B段階の生徒が男子47%、女子56%、C段階の生徒が、男子23%、女子31%、D・E段階の生徒が男子29%、女子12%であった。

男子は50m走とハンドボール投げの項目が全国平均を下回った。女子は、反復横跳びと立ち幅跳びの項目以外は全国平均を下回った。男女とも50m走とハンドボール投げの項目は全国平均を下回っていることが明らかになった。

5 学習を進めるに当たって

本単元では、ミニテニスを教材として取り入れ、球技(ネット型)の特徴である「空いた場所をめぐる攻防」に迫ることをねらいとする。ミニテニスは、扱いやすいラケットと大きく柔らかいボール、狭いコートを使うため、安全で全員が楽しめる教材である。特に、ボールが大きくスピードが出にくいことで打点をとらえやすく、ラリーを続けやすいことから、相手の位置を見て空いた場所をねらうなどの攻防に焦点化しやすい。また、小学校段階では「テニピン」を実践している学校も多く、ミニテニスはテニピンとテニスをつなげる上で最適な教材であると考えられる。そこで、本単元では、視点表を活用して自他の動きを分析・評価する学習活動を通し、技能の向上とともに「思考力、判断力、表現力等」の育成を図る。体育分野におけるICTの活用は、動きや技能の理解が深まることを助け、自己の課題が明確化することで、運動意欲の向上に繋がると考えられる。また、視点表を活用することで自分の動きと正しい動きを比較でき、動きや技能の高まりが期待できる。

本単元の第3時間目までは、前年度の学習を踏まえ「基礎的な技能等を身に付ける」ことをねらいとし、既習事項を含めた知識及び技能の習得を図る。その際、視点表を効果的に活用し、技能習得を図るとともに、視点表を用いた話し合い活動を通じて、仲間の課題に対して具体的なアドバイスを伝えられるようにしたい。

4時間目以降の授業では、「身に付けた技能に応じたゲームを楽しむ」ことをねらいとし、自己の技能に応じた戦術を選択して試合を進めていく。その際、視点表を基に自分たちの動きを振り返らせることで自己の課題を確実に把握させたい。そして、他者との対話や議論を通じてそれらの課題解決に取り組むことで学びの充実を図る。また、体育理論の「運動やスポーツの学び方」において扱う、合理的な運動やスポーツの学び方の内容を本単元と関連付けることで、生徒に体育理論が運動やスポーツの実践とつながっていることに気付かせたい。そこで本時の学習にあたっては、目標を「提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶことができるようにする」と設定した。

導入段階では、目標を提示した後、6時間目に行った試合を分析して発見した課題を確認する。その後、体育理論で考えた分析方法を活用し、自己の課題に応じた実践的な練習方法を選択させる。

展開段階では、課題に応じた練習を行った後、試合を行う。

終末段階では、本時の課題練習の選択が適切であったか振り返りを行い、その後、他グループの気

づきや発見を共有したい。

6 単元の評価規準（●第1学年 ・第2学年 ◎第1・2学年共通）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
全ての単元の評価規準	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 ● 学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出ししたりしている。 <p>◎ 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対戦相手との競争において技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。 ● 球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 	<p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> サービスでは、ボールやラケットの中心付近で捉えることができる。 ● ボールを返す方向にラケット面を向けて打つことができる。 ● 味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。 ・ 相手側のコートの空いた場所にボールを返すことができる。 ● テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。 ● 相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。 ・ プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻ることができる。 ● ボールを打ったり受けたりした後、ボールや相手に正対することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・ 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ● 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・ 練習やゲームをする場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ● 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ● 仲間と話し合う場面で提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ・ 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ● マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ● 作戦などについての話し合いに参加しようとしている。 ・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。 ● 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ● 分担した役割を果たそうとしている。 <p>◎ 健康・安全に留意している。</p>
単元の評価規準	<p>① 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。</p> <p>② 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>③ 対戦相手との競争において技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>① サービスでは、ボールやラケットの中心付近で捉えることができる。</p> <p>② 相手側のコートの空いた場所にボールを返すことができる。</p> <p>③ プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻ることができる。</p>	<p>① 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>② 練習やゲームをする場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>③ 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。</p>	<p>① 球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。</p> <p>③ 健康・安全に留意している。</p>

7 指導と評価の計画（12時間）

時間		1	2	3	4	5	6
指導内容	知	①球技の特性	②技術の名称	②技術の名称			③技術や戦術の選択
	技		③各ポジションの定位置に戻る	①サービスでラケットの中心付近で捉える			
	思・判・表					②よい取組を見付け理由を添えて伝える	
	学・人	③健康・安全に留意する【健康・安全】			②一人一人の違いを認める【共生】		
学習の流れ	0	1 オリエンテーション 学習の約束・学習の進め方	1 ランニング 2 準備運動 3 本時の確認	1 ランニング 2 準備運動 3 スキルアップトレーニング 4 本時の確認	1 ランニング 2 準備運動 3 スキルアップトレーニング 4 本時の確認	1 ランニング 2 準備運動 3 スキルアップトレーニング 4 本時の確認	1 ランニング 2 準備運動 3 スキルアップトレーニング 4 本時の確認
	10	ねらい1 基礎的な技能等を身に付けよう			ねらい2 身に付けた技能に応じたゲームを楽しもう。		
	20	2 テニスの成り立ちやルールについて既習事項を確認する。 3 テニスの特性について考える。 4 活動をする際の安全についてのルールについて考える。 5 グループ編成及び班の約束事を決める。	4 1年次の練習動画を振り返り課題設定を行う。 ※視点表の活用 5 コートに分かれ課題練習を行う。	5 各コートでサービスのポイント確認を行う。 6 サービスの練習を行う。 7 各コートでサービスを意識した試合を行う。	5 ルールの設定を行う。 アダプテッドシート 6 試合を行う。	5 今日目指す「フェアなプレイ」の設定を行う。 6 プレ大会を行う。 アダプテッドシート 思考ツール④ 7 フェアなプレイについて褒め合う。	5 空いた場所に打っているか視点を絞って動画分析を行い、課題設定を行う。 ※視点表の活用 6 課題練習
	30						
	40						
	50	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認	8 本時の振り返り、次時の確認	7 本時の振り返り、次時の確認	8 本時の振り返り、次時の確認	7 本時の振り返り、次時の確認
評価	知	①学習カード	②学習カード	②学習カード			③学習カード
	技			③観察	①観察		
	思・判・表					②観察・学習カード	
	学・人						③観察
準備物		タブレット	タブレット	タブレット	タブレット	タブレット	タブレット
カリ・マネ	体育理論	運動やスポーツの安全な行い方			運動やスポーツの効果		
	保健	傷害の発生要因					
	他教科						

時間		7	8	9	10	11	12
指導内容	知						
	技	②空いた場所にボールを返す					
	思・判・表		①課題に応じた練習方法の選択	③練習やゲームを行う方法を伝える			
	学・人				①積極的に取り組む		
学習の流れ	0	1 ランニング 2 準備運動 3 スキルアップトレーニング 4 本時の確認	1 ランニング 2 準備運動 3 スキルアップトレーニング 4 本時の確認	1 ランニング 2 準備運動 3 スキルアップトレーニング 4 本時の確認	1 ランニング 2 準備運動 3 本時の確認 4 スキルアップトレーニング	1 ランニング 2 準備運動 3 本時の確認 4 スキルアップトレーニング	1 ランニング 2 準備運動 3 本時の確認 4 スキルアップトレーニング
	ねらい2 身に付けた技能に応じたゲームを楽しもう。						
	10	5 課題の設定 ※視点表の活用	5 試合における課題練習の設定	5 試合の分析 ※視点表の活用	5 リーグ戦の行い方を理解する。	5 リーグ戦を行う。 ※生徒主導	5 リーグ戦を行う。 ※生徒主導
	20	6 課題練習を考え作る。	6 課題練習を行う。	6 試合方法の確認を行う。 アダプテッドシート 思考ツール⑦	6 リーグ戦を行う。 ※生徒主導		
	30	7 課題練習を行う。	7 試合を行う。 思考ツール②				
40	8 本時の振り返り、次時の確認	8 本時の振り返り、次時の確認	7 本時の振り返り、次時の確認	7 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、次時の確認	6 本時の振り返り、単元の振り返り	
50							
評価	知						
	技				②観察		
	思・判・表		①観察・学習カード	③観察・学習カード			
	学・態			②観察		①観察	
準備物		タブレット	タブレット	タブレット	タブレット	タブレット	タブレット
カリ・マネ	体育理論		運動やスポーツの学び方				
	保健						
	他教科						

8 本時の学習（8／12）

(1) 本時の目標

- 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶことができるようにする。
(思考力, 判断力, 表現力等)

(2) 本時の学習評価

- 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。

(思考・判断・表現)

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○:評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」状況と判断される生徒への手立て
はじめ 10分	1 集合、挨拶、出欠確認を行う。 2 準備運動を行う。 3 スキルアップトレーニングを行う。 4 学習の流れを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の健康状態を確認する。 ○ 試合につなげるために、空いた場所に打つことを意識させ、スキルアップトレーニングを行わせる。 ○ 本時の流れを確認し、見通しをもてるようにする。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを伝えよう！ </div>				
なか 30分	5 自己の試合における課題から練習方法を選択する。 6 課題練習を行う。 ・ 自分の課題に合わせて、練習内容ごとにコートに分かれる。 7 各コートで試合を行う。 ・ コートごとに分かれてペア固定で試合を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題に応じた練習を選択させるために、練習方法の説明を行う。 ○ 課題練習を意識させるために、各コートにタブレットを置き練習内容の動画を確認できるようにする。 ○ 狙う場所を視覚化するためにマーカーを置き意識させる。 ○ 試合をスムーズに行うために、試合の行い方の確認等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 (観察・学習カード) 【Aの例】 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを具体的に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各練習方法の目的を提示する。
まとめ 10分	8 本時の振り返りを行う。 ・ チームごとに課題に対する振り返りを行う。 9 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ できたことや、新たな課題を明確にするために、体育理論で活用した【ひむかアプローチ】を活用し、振り返りを行わせる。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 課題に応じた練習方法を選び、動きのポイントを仲間に対して分かりやすくアドバイスすることで、自他の動きの向上につながる。 </div>				